

登録コード	L1320200	開講年度	2026				
担当教員	菊池 聡 他			副担当	木村 宏人		
授業科目	文化情報論概論 【EA】						
英文授業名	Cultural Informatics: Introduction						
授業タイトル	Cultural Informatics: Introduction						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	木曜・3時限
講義室			遠隔授業科目	該当	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前が対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力				現代社会にあふれる情報をクリティカルに吟味し、自らの思考力を発揮して適切な意志決定を導けるようになる。		
	【2022年度以前が対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー				情報にかかわる社会的・認知的バイアスを理解し、的確に分析することができるようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降が対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				情報化社会の諸相・文化を、自らの思考力をもとに批判的に理解できるようになる。		
	【2023年度以降が対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】				批判的思考力を身につけ、現代の高度情報化社会の諸課題に自ら取り組むことができるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	地域運営、キャリア						
全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース、ストラテジー・デザイン人材養成コース、ライフクリエイター養成コース						
授業の概要	文化情報論研究室の2人の教員が、現代の高度情報化社会と文化について、それぞれの専門から分析する。全15回を、前半10回が菊池、後半5回は木村が、リレー式に担当し、全体を通して総合点で評価する。原則としてオンラインで受講する完全オンライン科目（【EA】）で実施する。信州大学e-LearningプラットフォームeALPの当該コース情報を、『授業開始前』に必ず参照すること。 授業の目標は、情報化社会に氾濫するさまざまな情報を的確に読み解く上で必須の「クリティカル・シンキング(批判的思考)」の態度と技術を習得することである。クリティカル・シンキングとは、相手を非難や否定したりするための「批判」ではなく、情報をうのみにせず、情報を多面的に懐疑的に吟味して、よりよい判断を見つけるための良質の思考のありかたである。 前半10回（菊池）では、クリティカルな思考の対極にありながら社会的に影響のある非合理的な思考や信念を素材として取り上げる。こうした不適切な思考には、人が備えている思考・知覚・記憶などの認知の歪み(認知バイアス)や、メディア情報の歪曲が影響を与えている。こうした非合理的思考の具体的事例を検討しながら、現代社会の諸現象と人の心理の働きをクリティカルにとらえなおしていく。第11回からは趣味や消費、文化、メディアに関連する話題を取り上げつつ、社会学的な考え方を取り上げ、量的な社会調査法の観点から、より良い社会認識を得るための基礎的な考え方や手続きを学ぶ。						
授業計画	1 クリティカル・シンキングへの招待 イントロダクション 2 体験がもたらす人の「思い違い」：認知心理学からのアプローチ 3 人の認知バイアスと超常信念 4 認知バイアスを克服する 5 目撃体験とクリティカルシンキング 6 科学と二セの科学 非科学的な主張の見抜き方 7 占いと予言の心理学 8 マインドコントロールと認知的不協和 9 疑似科学の諸相と陰謀論 10 奇跡的治癒と前後論法 11 正しい社会認識と社会調査 12 社会の数量化 13 比較の条件 14 因果の特定 15 確率の活用、授業アンケート						
成績評価の方法	原則として、授業各回の終了後に、授業内容の理解や応用力を測定するオンライン・小テスト課題を毎回実施する。これらに加え、記述式の課題やレポート課題が実施される場合がある。 オンライン小テスト課題の実施方法や、欠席時の補充方法などについては、初回の授業で十分に説明するので、必ずその指示に従って回答すること。 小課題の得点をすべて加算して最終成績（100％）とする。						
成績評価の基準	すべての小課題での評価点を総合して評価する。授業内容を精緻に理解しているだけでなく、発展的に自らの身の回りの問題を吟味し、応用的な批判的思考力を発揮できていれば「卓越している」、授業内容を十分に理解した上で、汎用的な批判的思考力が発揮できると考えられれば「かなり上にある」、授業内容						

成績評価の基準	が十分に理解された上で、他の場面へも応用できる可能性が示されていれば「やや上にある」、授業の重要な内容が理解されていれば「水準にある」と評定する。
事前事後学習の内容	小テスト課題に適切に解答するためには、授業で取り上げた事項の表面的な理解だけではなく、応用的な考察も必要となる。これらを授業の復習とともに十分に遂行した上で、必要な小テスト課題を受験すること。特別な事前学習が必要である場合には、別途指示が出される。
履修上の注意	オンデマンドの講義を聞いて知識を得るだけの授業ではなく、学生自らが考えることを重視するため、考え方を深めるための学習活動が要求される。 小テスト課題やレポート課題において、本授業が標榜する「自分で考える力を伸ばす」という目的に反して、生成AI等を「不適切に使用」と判断された場合には、本授業の成績は0点とし、単位は認定されない。 授業期間中に大学生の批判的思考力や関連特性を明らかにするオンライン調査の実施を予定しており、これに受講生の回答協力を呼びかける。この調査への参加は、授業成績評価と一切関係のなく任意参加を依頼するものであり、もちろん回答しないでも差し支えない。調査は、信州大学の調査に関する倫理委員会の認可を得て行われる。
質問、相談への対応	eALPS上で質問の受付と対応を行う仮想オフィスアワーを設置し、これを利用して適宜質問を受けつけるとともに、受講生同士のディスカッションを推奨する。 また、これら以外の個人相談については、eALPS上のシステムからアポイントメントを取った上で直接の質問と相談に適宜対応する。
教科書	使用しない予定。
参考書	「より良い思考の技法 クリティカル・シンキングへの招待」(2023).放送大学教育振興会 「なぜ疑似科学を信じるのか 思い込みを生み出す二つの科学」(2012).化学同人 「数字のセンスを磨く：データの読み方・活かし方」筒井純也 (2023) 光文社 .